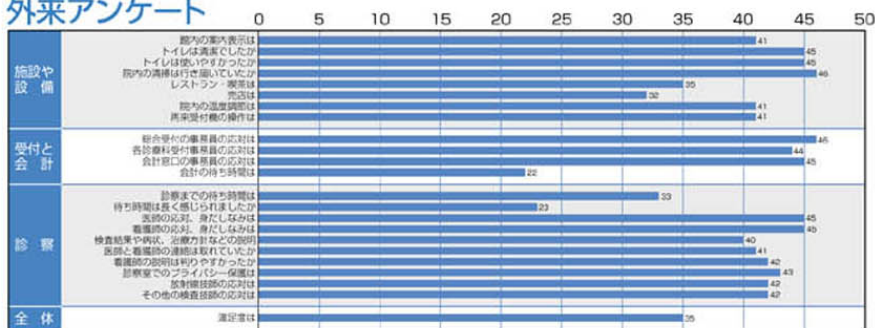


市立豊中病院ニュース

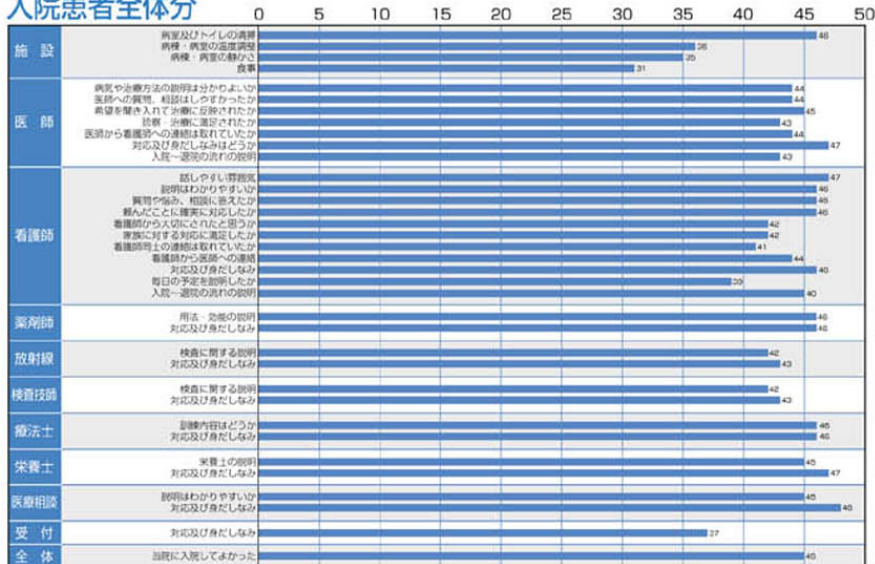
患者満足度アンケートの集計結果をご報告します

このたび「患者満足度の向上」を目指し、アンケートを行いましたので報告します。 Question

外来アンケート



入院患者全体分



点数は、各々の設問に対しての回答が「1:大変満足した」は50点、「2:まあまあ満足した」は30点、「3:あまり満足しなかった」は10点、「4:全く満足しなかった」は0点として合計を出し、有効回答数で割って出しています。

実施期間:平成17年11月7日から11月25日までの3週間 回答数:496人(回答率:84.6%)

アンケートにお答えいただいた皆様には深くお礼申し上げます。今回の結果を十分に踏まえ、次回のアンケート調査の際には今回より高い評価をいただくことができれば、病院職員一同引き続き努力していきます。

結石破砕機を更新しました



当院泌尿器科では、2005年9月より新しい結石破砕機を導入し、尿路結石症に対する破砕治療をおこなっています。今回導入されたドイツ・Storz社製モデュリスSLX-F2は、同社が2005年夏に日本での販売を開始した最新機種であり、衝撃波結石破砕機として世界で初めて装置の焦点サイズをそれぞれの状況にあわせて設定することが可能となっています。これにより結石の大きさ、位置を考慮し、衝撃波領域をきめ細かく調整し最適な治療効果を得ることができるようになりました。

大きな腎結石などでは通常、複数回の体外衝撃波結石破砕術が必要となりますが、直径1cm前後の結石であれば、大部分の症例で1回の破砕術で、結石が尿とともに自然に体外へ排出するくらいの大きさにまで破砕することが可能です。当科で以前稼働していた機種に比べ効率よく破砕できる反面、破砕時の衝撃波が強く、衝撃波発生装置が皮膚に接触する部分での痛みも多少は強くなります。そのため当科では結石破砕施行当日に入院して戴き、破砕翌日には退院、以降外来通院にて排石状況を確認するようにしています。

現在、月曜、水曜、金曜日の午後から結石破砕術をおこなっており、ほとんどの症例で十分な結石破砕効果が得られています。わが国における尿路結石症患者数は年々増加しており、発生頻度は西欧諸国並になりつつあります。また、最近の疫学調査では、日本人男性の10人に1人は一生のうち一度は尿路結石症に罹患するという結果が報告されています。わが国の尿路結石症に対する外科的治療の90%以上が、この体外衝撃波結石破砕術であることを考えると、今後も豊中市の基幹病院として、新たに導入した結石破砕機を十分に活用し地域医療に貢献していきたいと考えております。

